

国立大学法人三重大学の中期計画新旧対照表

現 行	変 更 案	変更理由
<p>II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置</p> <p>(② 教職員人事)</p> <p>2 教員の更なる意欲向上と能力発揮に資するため、年俸制の推進やクロスアポイントメント制度の導入等弾力的な給与制度による教員採用を推進し、年俸制教員においては承継内の10%を継続的に確保するとともに、テニュアトラック制度を更に推進し、教育研究を活性化させる。また、これまで構築してきた教育職員の業績評価体制を検証し、改善する。</p> <p>3 実践的指導力の育成・強化を図るため、学校現場で指導経験のある大学教員を、第3期中期目標期間末までには、教員養成分野の全教員の20%を確保する。</p> <p>4 学長、理事等を支援する専門職能集団の更なる育成と強化のため、学内の幹部職員及び幹部候補職員を対象としたマネジメント研修等を実施する。また、職員の経営・管理・業務等に関する能力開発に資</p>	<p>II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置</p> <p>(② 教職員人事)</p> <p><u>2 40歳未満の優秀な若手教員の活躍の場を全学的に拡大し、教育研究を活性化するため、若手教員の雇用計画に基づいて積極的に登用し、退職金に係る運営費交付金の積算対象となる若手教員の雇用率を16.5%となるよう促進する。</u></p> <p>3 教員の更なる意欲向上と能力発揮に資するため、年俸制の推進やクロスアポイントメント制度の導入等弾力的な給与制度による教員採用を推進し、年俸制教員においては承継内の10%を継続的に確保するとともに、テニュアトラック制度を更に推進し、教育研究を活性化させる。また、これまで構築してきた教育職員の業績評価体制を検証し、改善する。</p> <p><u>4 実践的指導力の育成・強化を図るため、学校現場で指導経験のある大学教員を、第3期中期目標期間末までには、教員養成分野の全教員の20%を確保する。</u></p> <p><u>5 学長、理事等を支援する専門職能集団の更なる育成と強化のため、学内の幹部職員及び幹部候補職員を対象としたマネジメント研修等を実施する。また、職員の経営・管理・業務等に関する能力開発に資</u></p>	<p>国立大学改革強化推進補助金（特定支援型）に採択されたため</p>

<p>するため、eラーニングシステムを利用した研修等について検討を行い、必要な研修を実施する。</p> <p><u>5</u> 男女共同参画をさらに強化するため、優秀な女性を積極的に登用することにより、女性教員比率18%以上、事務系職員の指導的地位に占める女性比率20%以上を達成する。また、本学及び三重地域の男女共同参画をさらに推進するため、三重県知事表彰「男女がいきいきと働いている企業 グッドプラクティス賞」を受賞（平成25年度）した実績を基に、男女共同参画フォーラム等の意識啓発事業を三重県と共催で実施するなど、三重県との連携を強化する。</p> <p>（その他の記載事項）</p> <p>X その他</p> <p>2. 人事に関する計画</p> <p>・優秀な若手教員及び外国人教員の登用を積極的に推進する。</p> <p>若手教員の比率20%以上、外国人教員の比率4%以上達成</p>	<p>するため、eラーニングシステムを利用した研修等について検討を行い、必要な研修を実施する。</p> <p><u>6</u> 男女共同参画をさらに強化するため、優秀な女性を積極的に登用することにより、女性教員比率18%以上、事務系職員の指導的地位に占める女性比率20%以上を達成する。また、本学及び三重地域の男女共同参画をさらに推進するため、三重県知事表彰「男女がいきいきと働いている企業 グッドプラクティス賞」を受賞（平成25年度）した実績を基に、男女共同参画フォーラム等の意識啓発事業を三重県と共催で実施するなど、三重県との連携を強化する。</p> <p>（その他の記載事項）</p> <p>X その他</p> <p>2. 人事に関する計画</p> <p>・優秀な若手教員及び外国人教員の登用を積極的に推進する。</p> <p>若手教員の比率20%以上、外国人教員の比率4%以上を達成</p> <p><u>退職金に係る運営費交付金の積算対象となる若手教員の雇用率を16.5%となるよう促進</u></p>	
--	---	--

現 行		変 更 案		変 更 理 由
中期計画 別表 (収 容 定 員)		中期計画 別表 (収 容 定 員)		
学 部	人文学部 <u>1, 120人</u>	人文学部 <u>1, 040人</u>		人文学部の入学定員改訂のため
	教育学部 800人 (うち教員養成に係る分野 800人)	教育学部 800人 (うち教員養成に係る分野 800人)		
	医学部 1, 090人 (うち医師養成に係る分野 750人)	医学部 1, 090人 (うち医師養成に係る分野 750人)		
	工学部 1, 660人	工学部 1, 660人		
	生物資源学部 <u>980人</u>	生物資源学部 <u>1, 060人</u>		
研 究 科	人文社会科学研究科 30人 (うち修士課程 30人)	人文社会科学研究科 30人 (うち修士課程 30人)		生物資源学部への新学科設置に伴う入学定員改訂のため
	教育学研究科 82人 (うち修士課程 <u>82人</u>)	教育学研究科 〔 82人 うち修士課程 <u>54人</u> 専門職学位課程 <u>28人</u> 〕		
	医学系研究科 〔 <u>241人</u> うち修士課程 <u>52人</u> 博士課程 189人 〕	医学系研究科 〔 <u>235人</u> うち修士課程 <u>46人</u> 博士課程 189人 〕		
	工学研究科 〔 480人 うち修士課程 432人 博士課程 48人 〕	工学研究科 〔 480人 うち修士課程 432人 博士課程 48人 〕		
	生物資源学研究科 〔 212人 うち修士課程 176人 博士課程 36人 〕	生物資源学研究科 〔 212人 うち修士課程 176人 博士課程 36人 〕		
	地域イノベーション学研究科 <u>35人</u> 〔 うち修士課程 <u>20人</u> 博士課程 15人 〕	地域イノベーション学研究科 <u>45人</u> 〔 うち修士課程 <u>30人</u> 博士課程 15人 〕		
			医学系研究科修士課程、地域イノベーション学研究科修士課程の入学定員改訂のため	